

京都議定書目標達成計画の骨子

目指す方向

京都議定書の6%削減
約束の確実な達成

地球規模での温室効果
ガスの長期的・継続的な
排出削減

基本的考え方

環境と経済の両立
技術革新の促進

すべての主体の参加・
連携の促進(国民運動、
情報共有)

多様な政策手段の活用
評価・見直しプロセスの
重視

国際的連携の確保

温室効果ガスの排出抑制・吸収の量の目標

区 分	目 標		2010年度現状対策 ケース(目標に比べ +12%)からの削 減量 2002年度実績(+ 136%)から経済成長等 による増、現行対策の 継続による削減を見込 んだ2010年見込み
	2010年度 排出量 (百万t-CO2)	1990年度 比(基準年 総排出量比)	
温室効果ガス			
エネルギー起源CO ₂	1,056	+0.6%	4.8%
非エネルギー起源CO ₂	70	0.3%	
メタン	20	0.4%	0.4%
一酸化二窒素	34	0.5%	
代替フロン等3ガス	51	+0.1%	1.3%
森林吸収源	48	3.9%	(同左) 3.9%
京都メカニズム	20	1.6%*	(同左) 1.6%
合 計	1,163	6.0%	1.2%

*削減目標(6%)と国内対策(排出削減、吸収源対策)の差分

目標達成のための対策と施策

1. 温室効果ガスごとの対策・施策

- 温室効果ガス排出削減
 - エネルギー起源CO₂
 - 技術革新の成果を活用した「エネルギー関連機器の対策」「事業所など施設・主体単位の対策」
 - 「都市・地域の構造や公共交通インフラを含む社会経済システムを省CO₂型に変革する対策」
 - 非エネルギー起源CO₂
 - 混合セメントの利用拡大 等
 - メタン
 - 廃棄物の最終処分量の削減 等
 - 一酸化二窒素
 - 下水汚泥焼却施設等における燃焼の高度化 等
 - 代替フロン等3ガス
 - 産業界の計画的な取組、代替物質等の開発 等
- 森林吸収源
 - 健全な森林の整備、国民参加の森林づくり 等
- 京都メカニズム
 - 海外における排出削減等事業を推進

2. 横断的施策

国民運動の展開 公的機関の率先的取組 排出量の算定・報告・公表制度 ポリシーミックスの活用
(環境税等も検討)

3. 基盤的施策

排出量・吸収量の算定体制の整備 技術開発、調査研究の推進 国際的連携の確保、国際協力の推進

推進体制等

毎年の施策の進捗状況等の点検、2007年度の計画の定量的な評価・見直し 地球温暖化対策推進本部を中心とした計画の着実な推進